
とある2人の最強高校生

超電磁砲・幻想殺し

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある2人の最強高校生

【Nコード】

N6352W

【作者名】

超電磁砲・幻想殺し

【あらすじ】

男嫌いの美少女、斎藤美咲は才色兼備の文武両道。何事にも無関心なイケメン男子、黒田拓海はあらゆる能力面で完全無欠の完璧男。男嫌いと無関心が交差するとき、物語が始まる。

登場人物

さいとう
美咲 みさき

年齢：15歳

誕生日：9月29日

血液型：O型

身長：162cm

体重：48kg

スリーサイズ：B84cm（Dカップ）/W55cm/H80cm

特技：柔道（三段）、空手（三段）、合気道、スポーツ全般、料理、家事全般

好きなこと・もの：家族、親友

容姿

クールな雰囲気とおしとやかさを持つ黒髪の美少女。

髪は肩下15cmほどの長さの綺麗でサラサラしたストレート。

化粧を全くいらぬほど整った美形の顔立ち。

高校生とは思えないほどの抜群のスタイル。

性格

表情豊かで家族・親友思いで優しく、面倒見も良い。

基本的に冷静で要領が良く落ち着いていて、素直で自分の間違いは言い訳せず認める。

妹のために無理をしたり、美幸に心配かけまいと我慢したりと1人で抱え込むことも……。

その他

本編の主人公。

才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

頭脳明晰、成績トップで入学試験は全教科満点で首席合格。

頭がよく切れ、勘が鋭く、有らゆることに敏感。

容姿端麗で本来ならモテるが完璧すぎて男を誰一人寄り付かせな

い。

恋愛に関しては別で他人のことには敏感だが、自分の事に関しては以外に鈍感でツンデレ。

男嫌いで怒らせると男子もビビらせるほど怖い。

鉄やコンクリート、岩などをいとも簡単に破壊することができる破壊力。

破壊力以外の身体能力も女子離れ（人間離れ）している。

どんな気配でも察知することができ、誰も背後に取ることができない。

美奈と美琴と美帆とは同じ中学で親友。

中学時代、柔道部と空手部を掛け持ちしていて両方の主将だった。

世界ジュニア柔道選手権で2連覇していて、公式戦や練習試合、

国際大会全て全戦全勝。

父親はすでに亡くなっていて、母の美幸が仕事で普段いないため、小学生の時から家事をしている。

黒田くろだ 拓海たくみ

年齢：15歳

誕生日：4月3日

血液型：O型

身長：180cm

体重：72kg

特技：剣道（三段）、柔道（三段）、空手（三段）、スポーツ全般、料理、家事全般

好きなこと・もの：観察

容姿

かなりの美形で誰もが認めるクールなイケメン（coolを通り越してcoldに近い）。

色素の薄い金髪。

エメラルドグリーンの瞳。

細身だが筋肉質でバランスが取れている体格。
性格

寡黙で無駄なことは基本的にしない。

沈着冷静で自分に関係ないことには、基本的に無頓着。

ポーカーフエイス。

その他

本編のもう1人の主人公。

眉目秀麗、頭脳明晰でスポーツ万能の文武両道。

何事にも要領が良い完璧男。

身体能力が人間離れしている。

どんな気配でも察知することができ、どんな時でも全く隙がなく

誰も背後に取ることができない。

成績トップで内部進学試験は全教科満点で首席合格。

父親は大企業のKURODAグループのCEO。

両親は現在アメリカにいる。

これまでずっと無敗で世界ジュニア柔道選手権で2連覇している。

祐輔と雅樹と俊とは親友。

齋藤 美鈴 さいとう みすず

年齢：14歳

誕生日：6月18日

血液型：O型

身長：155cm

体重：42kg

スリーサイズ：B80cm（Cカップ）/W52cm/H77cm

特技：バスケット、柔道、合気道、スポーツ全般、家事

好きなこと・もの：家族、バスケット

容姿

美咲にそっくり。

美咲と同じ髪の長さ。

中学生とは思えないくらい抜群のスタイル。

性格

美咲と同じく、表情豊かで家族・親友思いで優しく、面倒見も良
い。

素直で基本的に冷静で要領が良く落ち着いている。

その他

美咲の妹。

姉の美咲と同じく才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

身体能力が女子中学生離れしている。

女子バスケット部の部長でキャプテン。

小さいころから護身用に柔道と合気道を習っていた。

不審な気配を察知することができ、基本的に隙がなく不審者が背
後に取ることができない。

齋藤 美月

年齢：13歳

誕生日：10月24日

血液型：A型

身長：151cm

体重：40kg

スリーサイズ：B78cm（Cカップ）/W50cm/H75cm

特技：バレーボール、空手、合気道、スポーツ全般、家事

好きなこと・もの：家族、バレーボール

容姿

美咲と美鈴にそっくり。

美咲と同じ髪の長さ。

中学生とは思えないくらい抜群のスタイル。

性格

美咲と同じく、表情豊かで家族・親友思いで優しく、面倒見も良
い。

素直で基本的に冷静で要領が良く落ち着いている。

その他

美春と双子。

美咲と美鈴の妹。

姉の美咲や美鈴と同じく才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

身体能力が女子中学生離れしている。

バレー部所属。

小さいころから護身用に空手と合気道を習っていた。

不審な気配を察知することができ、基本的に隙がなく不審者が背後に取ることができない。

齋藤 美春

年齢：13歳

誕生日：10月24日

血液型：A型

身長：151cm

体重：40kg

スリーサイズ：B78cm（Cカップ）/W50cm/H75cm

特技：バレーボール、空手、合気道、スポーツ全般、家事

好きなこと・もの：家族、バレーボール

容姿

美咲と美鈴にそっくり。

美咲と同じ髪の長さ。

中学生とは思えないくらい抜群のスタイル。

性格

美咲と同じく、表情豊かで家族・親友思いで優しく、面倒見も良い。

素直で基本的に冷静で要領が良く落ち着いている。

その他

美月と双子。

美咲と美鈴の妹。

姉の美咲や美鈴と同じく才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

身体能力が女子中学生離れしている。

バレエ部所属。

小さいころから護身用に空手と合気道を習っていた。

不審な気配を察知することができ、基本的に隙がなく不審者が背後に取ることができない。

齋藤 美幸

年齢：35歳

誕生日：11月22日

血液型：O型

身長：161cm

体重：49kg

スリーサイズ：B95cm（Fカップ）/W58cm/H90cm

特技：家事、合気道（三段）、バスケ、バレエボール

好きなこと・もの：娘、亡くなった夫

容姿

20代と間違われるほどの美人で、ときどきナンパされることがある。

綺麗な黒髪を後ろで纏めている。

化粧がいらなくらい顔が整っていて肌がきれい。

性格

おしとやかで優しく、おおらか。

その他

美咲たちの母。

電機メーカーの開発企画部企画課課長。

どんな気配でも察知することができ、全く隙がなく誰も背後に取ることができない。

美島 美奈

年齢：15歳

誕生日：9月8日

血液型：AB型

身長：163cm

体重：48kg

スリーサイズ：B82cm（Dカップ）/W58cm/H81cm

特技：空手、スポーツ全般、サッカー

好きなこと・もの：親友、家族

容姿

化粧を全くいらないほど整った美形の顔立ち。

髪は金髪のストレート。

長さは腰あたりまでである。

基本的にポニーテールをしている。

美咲と同じでスタイル抜群。

性格

親友思いで優しく正義感が強い。

いじめが大嫌い。

その他

美咲と美琴と美帆とは親友。

才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

頭脳明晰、成績トップクラス。

中学時代は女子テニス部で全中選手権で3連覇。

母親がクォーター。

父親はサッカー選手。

母親は元テニス選手。

上条 美琴

年齢：15歳

誕生日：8月21日

血液型：O型

身長：161cm

体重：49kg

スリーサイズ：B80cm（Cカップ）/W56cm/H78cm

特技：空手、スポーツ全般、射撃、料理

好きなこと・もの：親友、家族

容姿

化粧を全くいらぬほど整った美形の顔立ち。

髪は茶髪のアトレートで肩あたりまでの長さ。

美咲と美奈と同じでスタイル抜群。

性格

快活で礼儀正しい。

誰にでも優しく、物凄く善人。

その他

才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

頭脳明晰、成績トップクラス。

美咲と美奈と美帆とは親友。

中学時代、陸上短距離選手で全中選手権3連覇。

父親は旅行会社の人事部部長。

母親は元日本代表の水泳選手。

北村 きたむら 美帆 みほ

年齢：15歳

誕生日：6月22日

血液型：B型

身長：167cm

体重：50kg

スリーサイズ：B88cm（Dカップ）/W58cm/H88cm

特技：柔道、スポーツ全般、料理

好きなこと・もの：親友

容姿

超天然の美少女。

化粧を全くいらぬほど整った美形の顔立ち。

美咲と美奈と美琴と同じでスタイル抜群。

肩あたりまでの長さの黒髪のアトレート。

普段はポニーテールにしている。

性格

超天然。

人懐っこく、基本的に誰にでも優しい。

その他

才色兼備でスポーツ万能の文武両道。

頭脳明晰、成績トップクラス。

美咲と美奈と美琴とは親友。

中学時代女子バスケット部の部長を務め、チームを全国制覇させている。

大手外食産業すかいはーくグループ総帥の令嬢。

高橋 たかはし 祐輔 ゆうすけ

年齢：15歳

誕生日：12月5日

血液型：A型

身長：178cm

体重：73kg

特技：剣道、柔道、空手、スポーツ全般

好きなこと・もの：親友、仲間

容姿

女子からモテまくる超イケメン。

細身だが筋肉質でバランスが取れている体格。

黒のサラサラした短髪。

性格

沈着冷静。

その他

伸洋と雅樹と俊とは親友。

眉目秀麗、頭脳明晰でスポーツ万能の文武両道。

中学時代は野球部で4番を務め、チームを全国制覇させている。

高橋製薬社長子息。

椎名 雅樹

年齢：15歳

誕生日：7月3日

血液型：B型

身長：183cm

体重：66kg

特技：スポーツ全般

好きなこと・もの：スポーツ

容姿

誰もが認める超イケメン。

細身だが筋肉質でバランスが取れている体格。

茶色の短髪。

性格

真面目だが超目立ちたがり屋でアホ。

その他

眉目秀麗、頭脳明晰でスポーツ万能の文武両道。

伸洋と祐輔と俊とは親友。

中学時代男子バスケット部の部長を務め、チームを全国制覇させてい

る。

父親はハリウッドのアクションスター。

母親は元ハリウッド女優。

大迫 俊

年齢：15歳

誕生日：11月10日

血液型：AB型

身長：174cm

体重：69kg

特技：サッカー、空手、スポーツ全般

好きなこと・もの：サッカー、親友

容姿

優しい系のイケメン。

細身だが筋肉質でバランスが取れている体格。

黒のツンツンはねた短髪。

性格

おおらかで優しい。

その他

眉目秀麗、頭脳明晰でスポーツ万能の文武両道。

伸洋と祐輔と雅樹とは親友。

中学時代はサッカー部のエースで全国制覇させている。

父親は大手自動車メーカーの開発部部长。

プロローグ

「部外者は引っ込んでいろ！」

1人の男がそう叫んだ。

男の前には1人の美少女と1人の女性が立っている。その美少女は男をものすごい形相で睨んでいて、女性は震えながら美少女の後ろに隠れている。

美少女が口を開いた。

「黙れ！ この最低男！ この人をお前みたいな男に付き合わせるわけにはいかない！ このDV男！ お前がやったことは暴力だ！

お前は警察行きだ、この犯罪者！」

「なんだと！（怒）」

男は美少女の言葉に我慢できなくなり、足もとに転がっていた鉄パイプを拾い上げて美少女に向かって走り出した。

「黙れこの尼！」

ところが、その美少女はその場から逃げようとせず、男から目を離さない。

そして、男が美少女の目の前まで来て、鉄パイプ振り下ろした。

その瞬間、美少女は男が振り下ろした鉄パイプに向けて左足の上段回し蹴りで放つ。左足は鉄パイプを捕らえ、鉄パイプは真つ二つにへし折り、左足下さずそのまま男へ後ろ蹴りを放った。美少女の蹴りのスピードが尋常じゃなく速く、男は正面から全速力で走り込んできたので避けることもできずに直撃した。

「ウエツ」

後ろに飛んだ男は懐から刃渡り20cmほどのサバイバルナイフを取り出した。

「死ねえー！！」

ナイフで刺そうと美少女に向かって走り出した。今度は、美少女

は左足から1歩前に出て男と距離が縮まり、ナイフとの距離が30cmほどになった瞬間、美少女はナイフを避けながら右足を大きく男の懐に踏み込んで男の右腕を掴みながら体を回転させ、男を背負い、そのまま美少女はなんと綺麗な一本背負いで男を投げたのだ。その後、美少女は掴んでいる男の右腕を捻り上げた。

「銃刀法違反だ！ この犯罪者！」

偶然通りかかってその様子を見ていた高校生くらい1人のイケメンは思わずこう言った。

「怖っ……………」

数分して警察が来て男を連行していった。

この男を投げた美少女、名前は斎藤美咲。15歳の中学生、とってもつい先日、中学校を卒業したばかりだ。様子を見ていた高校生くらいイケメンの名前は、黒田拓海。美咲と同じでつい先日中学を卒業したばかりだ。

何度か顔を合わせたことがあるが卒業した中学が違う2人。この2人が再び顔を合わせたとき、歯車が動き出す。

第1話 入学式

4月8日、今日は青城大付属青城高校の入学式。

新しい制服に袖を通した美咲は自室を出て玄関へ向かう。

「もう行くの？」

母の美幸が美咲の姿を見て声をかけた。

現在時刻は7時20分。

「うん。美奈たちと駅で待ち合わせしてるから」

「そう。ごめんね、今日行けなくて……」

「仕方ないよ、仕事忙しいんでしょ。それじゃあ、行ってきます！」

美咲は自宅を出ると駐輪場から自分の自転車を出し、待ち合わせ場所の千歳台駅へ向かった。

千歳台駅に着くと親友の美島美奈と上条美琴と北村美帆が待っていた。

「おはようー！」

「……おはよう！」

改札を通った4人を何人もの男たちが鼻の下を伸ばして見蕩れていた。ついこの前まで中学生だったとは思えないほどのスタイルとルックスの4人だ。見蕩れるな、という方が無理だ。

そんな視線を全く気にもとめず4人は階段を上っていくと、ちょうど乗換駅である新宿行きの急行が来るところだった。青城大付属青城高校は渋谷区広尾にあるため、新宿で山手線に乗り換えないといけない。

電車に乗った4人は新宿駅に着くと、山手線に乗り換え恵比寿駅へ向かった。

恵比寿駅に着き、電車を降りて改札口を出て広尾方面に歩いていくと途轍もなく広い敷地が見えてきた。その敷地が青城大付属青城

高校の敷地だ。青城高校の正門を高級車が何台も入っていく。その光景を見て美咲が口を開いた。

「まったく、学校には自転車か電車を使って徒歩で行くものでしょ！ 車で登校なんておかしいわよ！」

「仕方ないよ、ここの生徒の殆どが上流階級の家柄なんだから」

「そうだよ。高校からの入学者は80人しかいないんだし」

「その入学者も大半がそれなりにお金がある家だからね」

と言つて美咲を宥める3人。

しかし、美咲はすかさず3人に突っ込む。

「そういう美奈たちもお金持ちじゃない」

「……あはは……」

美咲の言葉が事実であるため苦笑いする3人。

「それより早く行こう」

4人は正門を通つて敷地内に入つていった。

中を歩いていると昇降口前にクラス表が掲示されていた。美咲たちはそこから自分の名前を探す。すると、4人とも1年1組だった。

「みんな同じクラスだ！」

「よかった！」

「また3年間よろしく！」

「こちらこそ！」

「よろしく！」

またとは、4人は小学1年生のときから9年間同じクラスだった。そしてこの青城高校はクラス替えが無い。そのため、1年のときのクラスがそのまま持ち上がる。つまり、4人は12年間同じクラスになる事が決まったのだ。

「それじゃあ、早く教室に行こう！」

4人が校舎に入り、階段を上つて1年1組の教室に向かう。1組の教室に入り黒板に貼られている座席表を見てそれぞれ自分の席に

座る。

少しして教師だと思われる人が1人入ってきた。

「はい、席に着いて！ 今から出欠を取る」

どうやら担任のようだ。

「 大迫駿」

「はい」

「 上条美琴」

「はい」

「 北村美帆」

「はい」

（美琴と美帆以外の名前は知らない人の名前のはずなのに、どこかで聞いたことのある名字ばかり）

そう思いながら一人一人顔を見ている美咲。残念ながら自分の席の列の人の顔は見えない。

「 黒田拓海」

「はい」

（黒田、拓海。柔道、空手関係で聞いたことがある名前だけど。まさか………ね）

「 齋藤美咲」

「はい」

その後も聞いたことのある名字しかなかった。大半が家柄や親の名前が有名で知っているという理由。中には中学時代に部活動で活躍していた人もいた。

先生は出欠を取り終わると、この後のことを簡単に話した。

時間になり体育館に行き、入学式が行われた。新入生代表は本来、主席合格者がやることになっている。しかし、今回は主席合格者が2人いたが双方とも辞退したため、代わりに次席合格者がやった。

入学式が終わり、教室に戻りHRで配布物が配られ、明日以降の

予定を聞き解散となった。

「美咲帰ろう！」

「うん！」

「美琴と美帆も行こう」

「OK」

「この後どこか寄る？」

「どうする？」

いつも通りの会話をしながら学校を出て駅に向かう。

恵比寿駅に着き電車に乗ってどうするか話したが、今日はこのまま帰宅することになり、千歳台駅に着くとみんな帰路に着いた。

第2話 青城大付属成城中最強の4人（前書き）

美咲視点です。

第2話 青城大付属成城中最強の4人

入学式の翌日。

私は昨日と同じ時間に家を出て駅に向かった。駅で美奈たちと待ち合わせると昨日と同じ電車に乗った。

恵比寿駅から学校へ向かっていると擦れ違う人たちがみんなこちらを振り向いてくる。

今日も3人に見蕩れてるばかり。3人とも超美人で可愛いから仕方ないか。

「どうしたの、美咲？」

「いや……また3人のことを見ている人いるなあ。と、思ってね」

「いつものことだね」

「『男女』とか『鬼』とか『魔神』とか言われてる私には無縁なことだけどね」

「……え!?!」

「しかも美奈はサッカー日本代表のキャプテンの娘だし、美琴は旅行会社の人事部長の娘だし、美帆はすかいほーくグループ総帥の娘。それに対して私は一般庶民」

（美咲ったら、自分のことにはほんと鈍感だよな!）

（そうそう！ 美咲が一番美人なのに中の中としか思っていないもん）

（しかもこう言っているけど、まるで気にしてないしね）

「まあ、どうでもいつか!」

そう言っただけで私たちは正門を通過して校舎に向かった。

私たちが教室に入ると、教室は女子でいっぱいだった。

「何だろ？ この人集りは」

私は美琴に聞くと美帆が答えた。

「多分、例の4人じゃない？」

「例の4人？」

（例の4人って、あの！）

「 青城大付属成城中最強の4人 ”よ」

青城大付属成城中最強の4人とは、青城大付属成城中からの内部進学者である大迫駿と椎名雅樹と高橋祐輔と黒田拓海のことだ。

黒のツンツンはねた短髪の男子が大迫駿。彼はイケメンでかなりモテている。中学時代は、うちの中学である千歳台中サッカー部の全大会の優勝を阻んだ成城中サッカー部のエース。

彼の父親は大手自動車メーカーの開発部部长でテレビや雑誌に取り上げられていて有名。収入はかなりの額だとか。

茶色の短髪の男子が椎名雅樹。彼は大迫と同様にイケメンでモテる。中学時代は、これまた千歳台中野球部の全大会の優勝を阻んだ成城中野球部の4番打者。

彼の父親は有名なハリウッドのアクションスターで、母親はハリウッド女優というなんとも豪華な親だ。そのため、収入が途轍もない額だ。

黒のサラサラした短髪の男子が高橋祐輔。彼も大迫や椎名と同様にイケメンで超モテる。さらにこいつも中学時代、千歳台中男子バスケット部の全大会の優勝を阻んだ成城中男子バスケット部部长。

彼の父親は高橋製薬の社長だ。高橋製薬は年商2兆円を超える会社だ。

そして、エメラルドグリーンの瞳で色素の薄い金髪の男子が黒田

拓海。こいつも3人と同様にイケメンで超モテる。さらに私と同じで世界ジュニア選手権で2連覇している。

こいつの父親は黒田グループのCEOだ。黒田グループは世界有数の大企業で年商5兆円を超え、傘下の企業も含めると年商80兆円を超えるらしい。

この4人、頭脳明晰でスポーツ万能の文武両道である上に憎らしいほど超イケメンでお金持ち。モテて当然だが、私はあまり気に入らない。と、というか好きじゃない。

私たちはこの4人と同じクラスというなんとも不幸なことだ。

第3話 区立千歳台中最強の4人(前書き)

拓海視点です。

第3話 区立千歳台中最強の4人

入学式から1週間が過ぎた。俺と祐輔と雅樹と駿の4人は今日も多くの女子が取り囲んでいる。そこから少し離れたところに4人の女子がいた。彼女たちも他の女子と同じで俺たちのほうを見ているが、その視線はこの取り囲んでいる女子たちと違っていている。さらに、4人は一度も俺たちに話しかけてこない。

俺がそっちのほうを見ていると雅樹が話しかけてきた。

「なあ、拓海」

「なんだ？」

「なんで彼女たちは俺のところに来てくれないんだ！」

「そんなもん知るか！」

目立ちたがり屋の雅樹にはいつも呆れる。

「確かに、彼女たちはまだ話しことないね」

「話しかけようとしても、すぐ女子に囲まれちゃって近づけないしね」

取り囲んでいる女子は同じ1年だけでなく2、3年の女子もいるため、10人20人の数じゃない。

いい加減にしてほしいと思いつつ、担任の橋本弘哉はしもとひろきが来た。「もうチャイム鳴ったぞ！ さっさと自分の教室に戻れ！」

この一言で女子たちが戻っていき、全員出て行くとHRが始まった。内容は大した事はなくすぐに終わり1限目の準備をした。1限目は地理ですぐに地理の教師が来て授業が始まった。

一番後ろの席の俺はボーッと教室全体を眺めていると例の4人を見てどうという人間だったか思い出した。

黒髪のポニーテールの女子が北村美帆。彼女は化粧を全くいらな
いほど整った美形の顔立ち。つまり、美少女だ。しかも顔だけな

くスタイルも超抜群で高校生とは思えないほどだ。頭脳明晰、つま
り才色兼備だ。しかもスポーツ万能の文武両道。彼女は中学のとき
は、女子バスケット部の部長を務めていたらしく、チームを全国制覇さ
せている。という実力を持っている。

彼女の父親は大手外食産業の『すかいほく』グループの総帥
だ。すかいほくグループは年商600億円を超える。そんな企業
の総帥の娘が公立中学出身とは誰も思わないようで、ほとんどの生
徒が気付いていないようだ。

肩あたりまでの長さの茶髪のアトレートの子が上条美琴。彼女
も北村さんと同様で美少女でスタイルも超抜群だ。同様なのは外見
だけでなく頭のよく頭脳明晰の才色兼備でスポーツ万能の文武両道
中学のときは、陸上の短距離選手で全中選手権3連覇している。種
目は100m、200m、400mだ。

彼女の父親は旅行会社の人事部部長で母親は元日本代表の水泳選
手（種目は4泳法全て）。父親が旅行会社の人事部長ということだ
から、それなりの収入だろう。

腰あたりまで長さのある金髪のアトレートをポニーテールをして
いる女子が美島美奈。彼女も2人と同様で美少女でスタイルも超抜
群で頭脳明晰の才色兼備でスポーツ万能の文武両道。中学のときは、
女子テニス部で全中選手権で3連覇している。

彼女の父親はサッカー選手で日本代表のキャプテンだ。母親は日
本人で唯一グラウンドスラムを達成したことがある元テニス選手。父
親は日本を代表する名選手で世界でも有名なMF。彼を超える選手
は未だいない。それだけの選手であるため、契約金や年俸は途轍も
ない額だ。

最後に、肩下15cmほどの長さの綺麗でサラサラしたストレ
ートの女子が斎藤美咲。彼女も3人と同様で美少女でスタイルも超抜

群で頭脳明晰の才色兼備でスポーツ万能の文武両道。彼女のことは他の3人と違って少々知っていて、クールな雰囲気とおしとやかさを持つ。

さらに、彼女は入学試験で全教科満点の首席合格だった。俺は内進学者のため、入学試験は受けていない。頭がよく切れ、勘が鋭く、有らゆることに敏感で鉄やコンクリート、岩などをいとも簡単に破壊することができ破壊力やそれ以外の身体能力も優れていて、どんな気配でも察知することができ、誰も背後に取ることができないように何度か強盗犯や変質者などを捕まえているところを見たことがある。

中学のときは、柔道部と空手部を掛け持ちしていて両方の主将だった。しかも、俺と同じで世界ジュニア柔道選手権で2連覇していて、国内の公式戦や練習試合、国際大会全て全戦全勝。

彼女の父親はすでに亡くなっているようで、母親は電機メーカーの開発企画部企画課課長だ。

彼女は他の3人と違ってごく普通の一般家庭でこの学校に入学できるとは思えない。おそらく、特待生なのだろう。

彼女たちは『区立千歳台中最強の4人』と、呼ばれている。これらのことを知っているのは俺と祐輔くらいだろう。

これだけの美少女だと普通の高校だけでなくこの学校でもモテるだろう。だが、彼女たちのことを知らない男子が無理に迫るとそれらは痛い目に遭うだろう。

第4話 脅威の体力測定

入学式から1週間が過ぎた。みんなそれぞれ部活に入部し始めている。

今日の体育の授業は体力測定だ。種目は握力、上体起こし、長座体前屈、垂直とび、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げ、1500m(女子は1000m)、50m走の9種目だ。

2人1組で行うため、美咲たちは美咲と美奈、美琴と美帆で組み、拓海たちは拓海と祐輔、雅樹と駿で組んだ。

まずは体育館で行う種目からやるため、美咲たちは握力から始めた。美咲たちより先にやった女子の1人が言った。

「和美すごい！ 両手とも37kg!」

「大したことないよ」

和美と呼ばれた女子は村越和美。ハンドボール部員で父親が村越建設の社長だ。

美咲たちも握力を測った。

「何kgだった美帆？」

「私は両手とも47kg。美奈は？」

「右が54kgで左が50kg。美琴は？」

「右は46kgで左が43kgだよ。美咲は？」

「左が65kgで、右は……80kg……」

「……凄っ!!!」

美奈と美琴と美帆も高校1年の女子としては十分凄いのだが、美咲は飛び抜けて凄い。当然他の女子はもちろん、男子も大騒ぎ。「彼女たち凄すぎだろ!」とか「あいつらほんとに女子か!」など言っていた。

一方男子のほうは、駿は右手が73kg左手が70kg、雅樹は

右手が84kg左手が82kg、祐輔は右手が90kg左手が86kg、拓海は右手が100kg左手が95kgとこちらも高校1年の握力とは思えない数字だった。

次は上体起こしだ。これまた4人は途轍もない数字で、美奈は37回、美琴は35回、美帆は34回、美咲は40回。

男子の4人も凄い数字で、祐輔は39回、雅樹は38回、駿も38回、拓海は41回。

その次の長座体前屈は8人とも非常に柔らかく、66cmを超えていた。

次は反復横とび。これは美咲以外の3人が同じ記録で70点。美咲はまたもこれ以上の80点だった。男子の4人も同じで拓海以外の3人が75点で拓海は85点。

垂直とびで女子は美琴が82cm、美奈が86cm、美帆が95cm、美咲が115cm。男子は祐輔が84cm、駿が89cm、雅樹が100cm、拓海が125cm。

今度はグラウンドで残りの立ち幅とび、ハンドボール投げ、1500m(女子は1000m)、50m走。

立ち幅とびは美奈が228cm、美帆が231cm、美琴が234cm、美咲が253cm、駿が270cm、祐輔が277cm、雅樹が284cm、拓海が297cm。

ハンドボール投げは美咲以外の3人が30m、美咲が37m、駿が37m、雅樹が39m、祐輔が43m、拓海が50m。

次は持久走。女子は1000mで先に美奈と美琴が走り、そのあと美咲と美帆が走った。タイムは美琴が3'33"、美帆が3'28"、美奈が3'21"、美咲が3'10"。男子は1500mで先に祐輔と雅樹が走り、拓海と駿があとに走った。記録は祐輔が4

、37”、雅樹が4、31”、駿が4、23”、拓海が4、09”。

最後に50m走。美咲が美琴と、美奈が美帆と一緒に走った。当然だが全中選手権短距離走優勝者である美琴は速すぎる。しかし、美咲も劣らず速くタイムは美琴が6、30秒、美咲が6、31秒、美奈が6、67秒、美帆が6、74秒と4人とも6秒台という脅威のタイム。男子は拓海は駿と、祐輔は雅樹と走り、タイムは拓海が5、79秒、駿が5、97秒、祐輔が5、83秒、雅樹が5、99秒というこれまた驚異的なタイムだった。

この記録に男女とも驚いていたが、生徒だけでなく体育教師も驚いていた。当然、この後あちこちの部活の部長がじきじきに勧誘に来たのは言うまでもなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6352w/>

とある2人の最強高校生

2011年10月26日02時10分発行